

2017年10月10日

ジャカルタ ジャパン クラブ
会員各位

ジャカルタ ジャパン クラブ
海外邦人安全対策連絡協議会

1 最近の政治・治安情勢

目立ったテロは発生していない。比較的落ち着いた情勢が続いている。9月29日に、イスラム擁護戦線（FPI）が、反共産主義及び社会団体を規制する政令に反対するという名目で、国会前で1万人前後のデモを行ったが、大きな混乱は無かった。今後は、2018年に統一地方首長選挙、2019年に大統領選挙があるため、政治的 이슈が突発的にデモ等につながるおそれもあり、注意が必要。

2 邦人に関わる最近の事件・事故報告

(1) 路上強盗

邦人が大きな被害にあった事件・事故は発生していないが、一般強盗などの事件はあった。先日、路上強盗について大使館より警察に申し入れを行ったところ、被害者から直接話が聞きたいと打診された。被害にあった場合には、警察に被害届を出し、大使館へご連絡いただくようお願いしたい。強盗やスリなども銃や刃物などを保有していることが多いので、事件に遭った際には反抗しないこと。

(2) 車両強盗

ブロックMで、運転手のみが乗った車両の後部ガラスを割られてパソコンやデジカメを盗られる事件が発生した。邦人が、車内にパソコンなどを残して降車したことを確認して狙った犯行であると思われる。車を降りる際は貴重品等を車内に残さないようご注意ください。

(3) 発砲事件

ガンダリアシティの地下駐車場で発砲事件が発生した。警察の発砲も頻繁に発生している。発砲事件にあった場合には、身を低くしてその場を離れるようにしてほしい。

3 報告及び連絡

(1) 強盗被害

邦人が強盗事件の被害者になることがあり、ジャカルタ警視庁長官及び刑事部捜査課長に強い申し入れをした。その効果があったのか、直近で類似の事案の認知は無い。また、歩道橋やトランスジャカルタでの被害は認知していないが、引き続きの注意が必要である。被害にあった場合は、大使館に情報共有願いたい。

(2) VOAトラブル

VOAのトラブルについても、空港側への申し入れ後、被害案件の報告は無い（未遂はあり）。

(3) バリ島アグン山の噴火

9月22日、バリ島のアグン山の噴火警戒レベルが最高のレベル4（危険）に引き上げられた。火山灰等の噴出による健康被害が生じる可能性があるほか、航空機を含む各種交通機関運行に影響を与える可能性があり、十分な注意・警戒が必要。10月5日、国家防災庁（BNPB）は噴火警戒レベル4を10月16日まで維持する旨を発表している。バリ島周辺への旅行・出張の予定がある場合、たびレジの登録を推奨する。たびレジには、アジア周辺地域の各公館が自然災害を含めた情報を提供している。

(4) ジャカルタ特別州知事就任式

来週16日（月）にアニス・ジャカルタ特別州知事の就任式が行われる。時間や場所はまだ公表されていないが、不穏な動き等は認知していない。

(5) ビザ申請窓口

一般ビザの取り扱い件数の急増に伴い、「日本ビザ申請センター」（JVAC）を9月15日にロッテショッピングアベニューにオープンした。IC旅券へのビザ免除登録、外交旅券、公用旅券は引き続き大使館

で行う。10月2日から、在留邦人向けのパスポート、各種証明などの手続きは、大使館2階から、1階の領事窓口に戻した。

(6) 在外公館投票

第48回衆議院議員総選挙の在外投票が明11日から大使館の講堂で行われる。衆議院の小選挙区の区割り変更があったため、投票には注意が必要である。

(7) 海外邦人安全対策セミナー

本セミナーは、11月21日(火)に変更して開催する。

4 最近の医療事情など(松浦医務官)

(1) インフルエンザワクチン

厚労省はインフルエンザワクチンが100万本不足すると公表している(通常使用量は2500万本)。また、年末年始には受験生が接種することが増えるため、このタイミングで帰国する方は、インドネシア国内で予防接種したほうが良いと思う。

(2) 鳥インフルエンザ

バリ島で鳥インフルエンザによる死者が発生した。患者数は3~4名でH5N1型に罹った可能性がある。今回は、人から人へ感染した可能性は否定されたが、今後流行の可能性はあり、注意が必要。インドネシア国内で鳥インフルエンザによる死者が発生したのは2年ぶり。

(3) 医療アシスタンスサービス

現在、ジャカルタで医療アシスタンスサービスを扱う企業は12社ある。そのうちの1社から提供された情報によると、2016年には107件の緊急航空搬送案件があった。利用者の国別では、アメリカ、日本、豪州、中国、フランスの順で続く。虫垂炎やデング熱などの生命に関わらない疾患による利用が多く、ジャカルタの医療に対する不信感が窺える。

5 質疑応答、各社(団体)からの報告

(質問)

アグン山の噴火の警戒レベル引き上げにより、当社ではバリ島への渡航を禁止しているが、一度禁止した方針をどのタイミングで緩めるのか悩んでいる。

⇒噴火にも小噴火から大噴火があるので様子を見る必要がある。

飛行機は出ているので行けるが、当局が発表する情報を確認することが必要である。

(報告)

オフィスマネジメントから外国人就労の監査があると9月25日に連絡があり、9月26日に実際に監査員の来訪を受けた。今回はジャカルタ特別州人口登録局が、外国人勤務先にて保管すべきKITAS、IMTAなどの書類を確認しに来たもので、特段の指摘はなし。一方、同局の他チームが居住先(家族)を監査するので、今回提示された書類(写し)を在宅家族も所有しておくよう提言を受けた。

(報告)

オフィスマネジメントから外国人就労に関する調査がある旨の通知が届いたが、年2回、定期的に行われている調査と同じ調査内容であり、特に問題なく終わっている。

(報告)

出張者が3名先々週にインドネシアへ来訪した。3名とも同じ行動をしていたが、1名のみアメーバ赤痢にかかった。シロアム病院に入院して回復したため日本に帰った。

また、当社社員に対して役職変更による住居確認のため、移民局の担当者が査察にきた。平日の夜のことである。

(報告)

- (1) 9月26日にJJCの労働問題委員会でイミグレ総局と面談、対話を行った。ITASエレクトロニクスはA4サイズと縮小サイズ(パスポート添付サイズ)が発行されている。外国人からのA4サイズへの苦情が多かったので縮小サイズも発行するようにしが、両サイズとも有効である。パスポート・オリジナル又はITASオリジナルのいずれか一方を所持していれば、パスポートとITAS双方のオリジナル同時携行は必要ないと、局長・担当課長から明言された。もし不安があれば、JJCホームページに掲載されているイミグレ総局発行のレター(2015年6月18日付)を合わせて携行することをお勧めする。
- (2) 工業団地の工場内視察の就労判断については、「工場内視察は就労ではない」と明言された。但し、担当官の監査が入るケースもあり、現場で認識の違い等の可能性もあるので絶対安全とは言いきれない(工場内視察と言っても活動範囲が広くどこまでが視察に当てはまるかの判断が難しい)。訪問ビザで来た外国人の工場内視察予定及び訪問者リストを事前にイミグレ地方所轄事務所に届け出ればより安全である。工場内視察の際に「Visitor in Factory」のようなプレートを首から下げるような工夫も有効であるが、それが絶対との保証はしかねる。工場内視察については労働省にも見解を質す必要があり、いまのところ対話を申し入れているものの応じてくれない。

(報告)

- (1) 9月23日(土)小中学校の合同体育祭を開催。自動車数868台が入ったが事故無く終了した。安全面に十分配慮して実施できた。本年度も、保護者には敷地内での禁酒と分煙をお願いしたが、トラブル無く無事に開催できた。
- (2) 9月29日(金)は、大使館とも相談し、デモが開催され危険な状況になることも考えられたため、早期一斉下校を行った。各教員が下校のスクールバスに同乗して対応に当たった。
- (3) バリ島のアグン山関係では、9月29日、10月末から予定していたバリへの修学旅行の延期を決定した。10月16日に保護者説明会を開催して延期の状況を報告する予定である。

以上